

人間関係講座（グループ）第111回

-グループの中での人間関係の理解のために-

担当者	大塚弥生（南山大学教職センター准教授） 土屋耕治（南山大学人文学部心理人間学科講師）
概要	この講座では、「体験学習」という方法を用いて、グループの中で起こってくる様々な事柄を捉える視点を養うことを目指します。 私たちは、会社や組織、家族や仲間関係など、様々なグループに身をおいています。そのなかでは、どのようなことが起こっているのでしょうか。講座では、取り組んでいる事柄（コンテンツ）だけではなく、人と課題の関わりや人と人との関わり（プロセス）について見ていく枠組みをご紹介します。 この講座のねらいは、以下の2つの分野です。 ①グループの中での人間関係（グループプロセス）に目を向け、グループプロセスに気づく力を養う ②グループの中での自分や他者の特徴に気づく この講座では、ラボラトリー方式の体験学習を用いた実習と、グループに関する理論の小講義によって学習を進めていきます。実際にグループの実習へ参加し、その過程を丁寧にふりかえり、メンバーとわかちあうことを通して、起こっていることに目を向けていきます。そのなかでは、グループの中での自分や他者の特徴についても理解が深まることが期待されます。グループの人間関係について関心がある方、理解を深めたい方にお勧めです。 【プログラムの内容（予定）】 ・小講義「グループプロセスとは？」「グループでの意思決定」「リーダーシップ」など ・グループでの問題解決実習 ・グループでのコンセンサス実習 ・グループでの制作型実習
日程	2019年7月13日（土） 10：00～18：00 7月14日（日） 9：00～17：00 土日集中
定員	36名
会場	南山大学 D棟5階 D51教室
受講料	11,200円（税込）
メルマガ講座報告	担当講師 大塚 弥生 記 7月13日（土）・14日（日）に、大塚・土屋がファシリテーターを担当し、第111回人間関係講座（グループ）が行われました。参加者は21名と、例年より少なめでしたが、その分、参加者同士の密な関わりがもたらされていたのではないかと思います。 このプログラムでは、1日目と2日目にそれぞれ異なるグループを体験しますが、2日間を通して、「ラーニング・トリオ」という、実習グループとは別の、固定されたメンバーとの関わりも同時に持っていきます。このトリオでは、お互いの気持ちや考え、体験を分かち合い、気づきや学びを支え合います。実習や講義を通して自分の内面に動くもの、実習の中では消化しきれないこと、まだ言葉にはならないけれども自分の中にある確かな感覚を、実習グループとは異なるメンバーに話してみることで、さらに視点が広がったり、モヤモヤしていた感覚に意味を見つけたり、整理ができたりするようです。 グループでの対話、トリオでの対話は、この講座に来たからこそ生まれているもので、プログラムそのものではありません。この貴重なグループやトリオの対話を、時間の都合で話を急かしたり、時に止めたりしなければならないのは、ファシリテーターとしての苦しさです。 ラーニング・トリオ、実習グループ、参加者全体という、異なるサイズのグループ・集合体・関係性を行き来できることも、この講座の持ち味ではないかなと感じています。ファシリテーターは、そのような参加者の様子を見ながら、様々な刺激を受けます。伝えたくなることが生まれ、プログラムの内容も変わっていきます。参加者の方からはなかなか見えない側面でしょうが、ファシリテーターにとっては、「その場を共に作っている」という貴重な感覚を味わうことになります。このように考えると、人間関係講座（グループ）は111回行われていますが、1度として同じプロセスはなかったのだらうと、講座担当者として思いを巡らせる回となりました。